

令和6年度（2024年度）第2回東海市まちづくり評価委員会会議録

議 題 令和5年度（2023年度）のまちづくりに関する評価（施策評価）
について

(1) 都市基盤（6施策）

(2) 産業・勤労（4施策）

日 時 令和6年（2024年）7月4日（木）午後2時～午後4時30分

会 場 東海市役所201会議室（2階）

出席者 委員：千頭聡、谷口庄一、倉知かおり、服部和子、木下俊春、

大西彰、松田剛、小島輝雄、長谷川一己、大岩英明

担当部等：若狭都市建設部長、津田中心街整備事務所長、小笠原環境経済部長、河田環境経済部次長、石松農務課長、芦原商工労政課長、名古屋土木課統括主幹、名和交通防犯課統括主任、佐藤都市計画課統括主任

事務局：成田企画部長、中島企画政策課長、伊藤統括主任、

鶴見主任、蟹江主事

欠席者 なし

公開の可否 公開

傍聴者数 0人

（内 容）

1 開会

2 令和5年度（2023年度）のまちづくりに関する評価（施策評価）について
事務局より施策主管課等が行った評価内容について説明

(1) 都市基盤（6施策）

(2) 産業・勤労（4施策）

3 今後の予定

主な質疑等は以下のとおり

施策２９「地域の特性を生かした土地利用を推進する」

大岩委員：

事業も順調に進んでいることが市民アンケートの結果によく表れていると考える。
以下についてお訊ねしたい。

１点目、立地適正化計画の都市機能誘導区域が、どのような目的でどのような区域なのか教えていただきたい。

２点目、成果指標にもなっている「中心市街地エリアの人口」について、どの程度になると見込んでいたか。

３点目、単位施策０１の評価コメントに「道路整備の順調な進捗等が人口の増加に影響した」とあるが、意図を教えていただきたい。

佐藤統括主任：

１点目について、立地適正化計画は、駅周辺に都市機能を集積し駅から離れた居住地を公共交通でつないでいくことを目的としている。都市機能を向上させる施設を誘導施設として位置付ける区域であり、太田川駅周辺や西知多総合病院周辺等を設定している。

津田中心街整備事務所長：

２点目について、総合計画の成果指標としては目標値を設定していない。

３点目について、区画整理を行うことで、道路が完成すると土地が使用可能となり、家が建ち、人口が増えていくという流れである。

大岩委員：

人口の目標値も設定しないまま開発を進めることは難しいのではないか。

若狭都市建設部長：

「中心市街地活性化基本計画」における中心市街地の居住人口や、土地区画整理事業の人口フレームは設定している。

千頭委員長：

都市機能誘導区域に誘導するということは、それ以外の区域は抑制されるということである。その抑制の部分が弱く、誘導の方が強調されてしまうと、本来の適正化とはならないので留意していただきたい。

大西委員：

単位施策 01 の評価コメントの 3 段落目、7 次計画に向けた記載内容が、事業が縮小化しているように感じられる。活性化をさらに推進していくなど、前向きな表現があるとよい。

施策 30 「だれもが安全に安心して通行できる道路をつくる」

長谷川委員：

清掃センター付近の開発地域のトラックの往来が激しいため、事故の未然防止として安全対策が取られるとよい。

若狭都市建設部長：

安全なまちづくりとして、道路整備と合わせて、居住エリアと工業の拠点エリアを分けた土地利用で対応していきたいと考えている。交通量が増えていることは認識しており、開発の民間事業者には、生活道路ではなく主要幹線道路の通行を指導している。

長谷川委員：

荒尾住宅から続く道路はインターチェンジにもつながっており、今後交通量が増加すると思われる。信号機の設置など、安全対策を今後も検討していただきたい。

千頭委員長：

トレーラーなどの特殊車両が通行する道路について、市から指導しているのか

若狭都市建設部長：

事業者から通行するルートに関する届出を提出してもらい、確認している。

大岩委員：

1 点目、めざすまちの姿にある「子ども、高齢者、障がい者」それぞれをターゲットとした道路の安全対策はとられているのか。

2 点目、名和、緑陽、横須賀地区など、成果指標 3012 「そう思わない」が多い地区に、新たに歩道を整備する予定はあるか。

名古屋土木課統括主幹：

1 点目について、高齢者や障がい者にはバリアフリー対策、子どもには歩車道分離やガードパイプ等の横断防止柵などの安全対策を行っている。

2 点目について、歩道の設置に関しては、学校や警察、行政が集まって「通学路安全プログラム」を開催し、そちらで要望や状況を集約している。

大岩委員：

信号待ちをしている子どもが、道路に飛び出しそうなくらいギリギリの位置で待機しており、危なく思う。

名和交通防犯課統括主任：

学校の交通安全教室で信号の待ち方等の指導は行っているが、交通安全教育を継続しつつ、足形マークをペイントすることで啓発を行っている地域もある。

また先ほどの信号設置の要望に関して、2、3年前から横断歩道の設置を警察に要望を出している。交通量の増加は認識しており、警察も推移を見守っているところである。

長谷川委員：

あまり広くない道路で、らんらんバスのような大きな車が停車すると追い抜きやすれ違いが難しく、通行が滞ってしまう。需要と道路容量に応じた検討をお願いしたい。

施策３１「快適に移動がしやすい交通環境をつくる」

千頭委員長：

紐づく成果指標の動向をみると、施策全体として「順調」といえるのか疑問である。

若狭都市建設部長：

計画通り道路整備を進められたことから「順調」と判断している。

千頭委員長：

元々、基準値とめざそう値の差があまりないため、めざそう値達成率だけで評価することが難しいと考える。10年後の目標値として控えめに感じるし、それも達成できていないという状況をどのように評価するのか。

大岩委員：

東海市が、行政マネジメントシステムとして市民アンケートを実施していることは評価できる。そのシステムの中で、事業を実施したことによるアウトプットの成果と、アウトカムの成果の差が何によるものなのか分析することが必要である。

長谷川委員：

らんらんバスの運用方法について、車両や人員の制約はあると思うが、ハブ・ア

ンド・スポークのようなルートや大型車・小型車の使い分けなど、工夫すればより利便性が向上すると思われる。

佐藤都市計画課統括主任：

市内公共交通の枝葉の役割を担う循環バスとして、今年のダイヤ改正では３ルートから５ルートに増やし、バスの台数も６台から８台へ増やして、需要に合わせた検討を進めている。また今年度は、デマンド交通の実証実験も実施予定である。

長谷川委員：

循環バスの利用者がどこを目的地としているのか、調査などで把握された方がよい。

施策３２「花と緑が豊かなまちなみをつくる」

長谷川委員：

日常的な実感もあるため、もっと良い評価をつけていいと考える

木下委員：

単位施策０３に関して、公園を新しく整備するだけでなく、既設の公園の維持管理についてはどのような。ネットが無い公園で球技をしていることがあり、ボールが飛んできて危険である。既設の公園についても実情に応じて見直しを行うべきである。

若狭都市建設部長：

ワークショップ形式で地域の声を聞き取り、整備を進めている。利用者の利用方法については注意喚起の看板を立てるなどの対策も行っている。

松田委員：

単位施策０１の評価コメントで、成果指標３２１１「花壇コンクールへの参加申し込み数」の対策としての取組があれば教えていただきたい。

若狭都市建設部長：

年２回で開催してきたが申込数に大きな変動もなく、参加される方も同じであるため、地域へのＰＲも実施している。

松田委員：

成果指標の３２１１の低下理由が、市民の高齢化や参加意欲の低下など、市民に起因するものだけなので、市側の要因分析も行うべきである。

施策３３「浸水被害がない地域にする」

大岩委員：

評価コメントに「近年はめざそう値と同水準」とあるが、どのような意図か。達成率が４３．４％と半分以下であり、同水準とは思えない。

千頭委員長：

このまちづくり指標４４「大雨に対する安全性が高いと思う人の割合」はアウトカムの指標であり、事業の達成度などのアウトプットな視点との乖離があった場合、その要因を分析できているかが重要である。

名古屋土木課統括主幹：

浸水対策として調整機能施設の整備を行ったが、ピンポイント的なものであり、市全体として効果が得られているとは言えない。

大岩委員：

評価コメントに「コミュニティ主体の避難行動計画」とあるが、町内会自体が脱退しているコミュニティもあり加入者が減少傾向にあるなかで、コミュニティに加入していない方への情報発信が懸念である。

成田企画部長：

コミュニティは全員が加入しているという前提で、現在、地域運営体制づくりに向けて議論も進めている。コミュニティに全て委ねるわけではなく、コミュニティと連携して進めていくものである。

千頭委員長：

基準値からほとんど変化が無く、めざそう値達成率も５０％以下であるのは、１０年間の成果としてどう判断すべきなのか。今後の更なる進展への期待を込めて「横ばい」とした方がよいのではないか。

伊藤企画政策課統括主任：

めざそう値達成率だけで判断するのであれば「横ばい」の基準となるが、紐づいている単位施策がいずれも「順調」であることを踏まえ、全体として「順調」という評価をしている。

小島委員：

評価コメントの「つながった」と「繋がった」の表記を統一した方がよい。

施策３４「良好な都市景観と快適な住環境をつくる」

大岩委員：

評価コメントにある「空き家対策等」について、具体的に教えていただきたい。

若狭都市建設部長：

所有する空き家を今後どうするかなど、所有者に指導や働きかけを行っている。

長谷川委員：

市内の空き家数はどのくらいか。

伊藤企画政策課統括主任：

令和６年３月時点で２８７件で、減少傾向にある。

長谷川委員：

空き家対策として、強制執行のような法的措置を行ったことはあるか。

若狭都市建設部長：

空き家対策については法制化されているため、法に則り指導などを実施している。

千頭委員長：

市内に特定空き家はあるのか。

中島企画政策課長：

１軒あったが解消済みである。

谷口職務代理：

評価コメントの３段落目に「創造の杜交流館」を拠点とした尾張横須賀駅周辺の歴史を生かした景観づくりや、子育て世代に対する…」とあるが、後段の文章が尾張横須賀駅周辺に限定したように読み取れてしまう。

千頭委員長：

文章の順番を逆にした方がよい。

国の法律や制度に基づいた対応は行っていくとして、それより前段階での対策として市独自の取組を行う予定はあるか。

若狭都市建設部長：

検討を進めているところであり、まずは課題を整理し、協議会へあげていく予定である。

施策２５「魅力のある農業を推進する」

松田委員：

指標のコメント欄の要因に関する記載で「生産者に対する意識が高く」とあるが、意図するところがわかりにくい。

石松農務課長：

年齢層によって考え方が異なっており、高齢者層は産地などへの関心が高く、若年者層は価格への関心が高くなっていると分析している。

松田委員：

表現を修正した方がよいと思われる。

木下委員：

農業における課題として販売額の面も挙げられる。農産物の価格は全面委託販売市場で決まるため、生産者の希望価格が反映されにくく、十分な利益を得ることが難しい。昔は農業で十分な利益を得られたが、現在ではそうではなく、生産量が少ないと価格が上がっても全体の収入は減少してしまう。地域ブランド化の試みとして、「夕焼け姫」というみかんの品種を作っており、このような取組によって若手の生産者も増えてはいるが、全体には広がっていない。

また、市内農産物の販売促進のために農業フェスティバルなどのPR活動も行っており、農協や市が協力して地域の農業を支援している。地域ブランド化やPR活動を通じて販売促進を図り、国や市場と連携して価格保証や販売戦略の改善を目指していく。

谷口職務代理：

知多半島５市５町の人たちが食べる分だけの生産力はあるのか。

木下委員：

米のような作物はまだいいが、玉ねぎなどは需要と供給のバランスが取れないため難しい。農家は経営のために一定量の農作物を生産するが、知多半島だけでは消費しきれないため、余剰が生じてしまうと思われる。国も生産価格の保証について様々な対応をしているが、生産者、市場、消費者の希望価格が一致せず、調整が難しい。市場の仕組みや価格決定のプロセスが課題である。

長谷川委員：

普段は農協の産直店舗で市内農産物を買おうと思っているが、スーパーで売って

いるものよりも価格が高いため、現在の物価高騰の影響もあり購入することが少なくなった。生活のために価格を重視せざるを得ない状況もある。

それでも、地元の農産物を大切にする地産地消の精神は続けたいと考えており、新しい商品やブランドが開発され、地元の良いものが評価されれば、消費行動も変わる可能性があると考えするため、地元生産体制は維持していったほしい。

千頭委員長：

魅力ある農業を実現し、地元産物への愛着を高めるためには、系統出荷だけが唯一の方法ではないと考える。市内でも系統出荷以外に野菜を販売できる仕組みが若干あり、そのような取組を市が支援する必要がある。すべてを系統出荷に依存することは、この厳しい状況を乗り越えるためには十分でない。

倉知委員：

子ども達の給食や食に関すること、魅力ある学校生活ということを踏まえて、子どもの農業体験を市で支援して進めることはできないか。

石松農務課長：

５５周年の記念事業として、農業センターで子ども向けの教室を開催する予定である。

中島企画政策課長：

「夕焼け姫」の試験ほ場では、植え付け・収穫を小学生に体験してもらっている。クラインガルテンでも付近の保育園の園児を対象にみかん収穫体験を実施しており、学校のカリキュラムとして組み込むことは難しいが、このような取組は実施している。

小島委員：

「夕焼け姫」の苗は入手できるか。広めたいのであれば入手の幅を広げられるとよい。

木下委員：

果樹振興会から予約購入という形になる。栽培方法が特殊なため、生産できる苗の数も限られており、このような形をとっている。

施策２６「商工業を活性化する」

長谷川委員：

単位施策０２に関連して、令和５年度に実施したキャッシュレスキャンペーンの実績と、令和６年度は８月に実施する理由を教えてください

小笠原環境経済部長：

昨年度は年に２回実施し、令和３年度から店舗の数が９００店舗ほど増加した。令和３年度の経済効果は約５０００万円だったが、令和５年度には２回実施したことで１１億９，０００万円の消費喚起があった。今年度は、国の補助金の関係や手続きの準備、ボーナス時期の関係で４月から準備を始めたため、実施が８月となった。

長谷川委員：

利用者の反応はどうか。

小笠原環境経済部長：

昨年から高齢者を対象にスマホ教室を提案し、利用促進を図っている。市役所の窓口も整備されており、今年度は商工労政課に職員を派遣して対応できるようにしている。

大西委員：

１点目、キャッシュレスキャンペーンに関して、還元ポイントも市内で活用されてほしいと考える。市内で使われたかどうかは把握しているか。

２点目、単位施策０４の評価コメントで、成果指標２６４２「市内ホテル等の外国人宿泊者数」の低下要因として、中国からの団体観光客数が回復しなかったことに焦点を当てているが、市内ホテルの実情として、市内企業関係者の宿泊が多く、キャパシティが不足しているのではないか。

芦原商工労政課長：

１点目について、システム上把握が困難であるため、市外に消費が流れていくなどのデメリットや市外から呼び込むことなども勘案し、適切な期間として１か月間を設定している。電子地域通貨という仕組みを用いれば可能になるが、課題もあるため導入は検討していない。

２点目について、個々のホテルの稼働率は把握できていない。

施策２７「市民の就業を支援する」

千頭委員長：

めざすまちの姿にある「若い世代、女性、障がい者、高齢者」のターゲットごとの就職支援を実施しているか。

芦原商工労政課長：

ハローワークと連携した障がい者雇用の促進、女性の育児休暇後の職場復帰を目指す方を対象とした相談事業などを実施している。若者世代に対する支援については、市として特別な役割を果たしているわけではなく、市内企業が従業員確保に苦慮しているなかで、就職フェアなどのイベントを通じて就職支援を行っている。

長谷川委員：

成果指標 2 7 1 1 「職業紹介件数」が基準値から大幅に減少しているが、若い世代はインターネットを用いて探す方も多いただろうし、低下したことが悪いこととは限らないと考える。第 7 次総合計画ではどのような指標を設定しているのか。

芦原商工労政課長：

民間のインターネット会社、例えばリクナビなどのアプリケーションで仕事を探す環境が整備されているため、地域職業相談室やハローワークの役割が課題となっている。第 7 次総合計画では、地域職業相談室の就職件数及び内職相談によるあっせん件数を、上向き指標として設定している。

小島委員：

評価コメントに「制度改正の周知」とあるが、表現として適切ではないと考える。

施策 2 8 「安全な消費生活を支援する」

千頭委員長：

第 7 次総合計画ではどのような施策になっているか。

芦原商工労政課長：

めざすまちの姿「安心・安全で快適に暮らせる都市機能が充実している」のなかで、施策 1 8 「暮らしの安全対策の推進」の単位施策 0 4 「安全な消費生活を支援する」という体系で整理している。

服部委員：

消費生活講座は現在、どのような内容で実施しているか。

芦原商工労政課長：

昨年度のテーマではないが、高齢者向けのSNSをきっかけとした消費トラブルの注意喚起や、悪徳商法に関する被害防止などである。

服部委員：

詐欺の手口がどんどん増えており、新札やスマホに関連するものなど、対策も大変である。若い世代はあまり引っかからないかもしれないが、高齢者が標的になることも多いため、啓発活動を強化していただきたい。